

(人吉高等学校定時制課程) 令和 7 年度 (2025 年度) 学校評価表

| |
|--|
| 1 学校教育目標 |
| 教育綱領「礼節」「勤労」「進取」のもと、人吉・球磨地域にある普通科の定時制の高校として、多様な個性・価値観を認め合い、豊かな情操と道徳心を養うとともに郷土への熱い思いをもって活躍し、人吉・球磨地域の復興と発展を支える人材を育成します。そのため、多様な生徒の学習形態に対応した教育活動の実践や、進路実現に向けた勤労観・職業観など、身につけるべき資質・能力の確実な定着を図り、その能力を最大限に引き出すことができる教育を目指します。今後は、ICTを積極的に活用しながら学習活動を進めるとともに、地域理解と自己理解を目指す探究学習を通して、人吉・球磨地域を中心とした地域振興に積極的に取り組むために必要な力を育てる、特色ある学びを展開します。 |

| |
|---|
| 2 本年度の重点目標 |
| 熊本県教育委員会から示された「令和 7 年度 (2025 年度) 県立中学校・高等学校における教育指導の重点」の趣旨に沿い、全職員が一丸となり、本校定時制に学ぶ生徒たちの現状を踏まえ、以下の項目の実現に努める。 (1) 授業改革・確かな学力の育成 (2) 生徒指導・生徒支援の充実・基本的生活習慣の確立 (3) キャリア教育の推進・進路指導の充実 (4) 学校行事の活性化 (5) 業務改善・生徒と向き合う時間の確保・働き方改革の推進 |

| 3 自己評価総括表 | | | | | | |
|------------------|-----------|----------------|--|---|----|---|
| 評価項目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
| 大項目 | 小項目 | | | | | |
| 学校経営 | 学校経営方針 | 学校組織の円滑な運営と活性化 | スクール・ミッションの内容と本校の課題が共有され、課題解決に向けた共通実践が行われている状態 | ①スクール・ミッションに照らし合わせた行事ごとの振り返りを学期ごとに検討し、改善案を次年度の実施要項等に反映させる。 ②各部会の課題や検討内容を、週に 1 回開催する部長会で情報共有し、チームとして対応できる職員集団を形成する。 | A | ①スクール・ミッションについては職員会議で繰り返し確認し、全職員で共有しながら業務を進めることができた。行事ごとの振り返りを学期ごとに行い、次年度への引継ぎ資料を作成することができた。 ②部長会で主任・主事の情報共有と各分掌の連携を深めることができた。 |
| | 魅力ある学校づくり | 魅力化と情報発信 | 本校の魅力について、広く認識された状態 | ①人定便りを毎月発行し、ホームページへの掲載や学校説明会等での配付を行う。また、ホームページのブログ(楽しくNight)を行事後 1 週間以内に更新し、本校の教育活動や特色を校内外に発信する。 ②総合的な探究の時間や生徒会行事を中心として地域と連携した教育活動をさらに充実させる。 | B | ①各種通信を通して生徒の様子を発信することができた。実践発表会では、定時制の教育活動について動画を作成し、発表した。行事や生徒の活動を定期的にホームページに掲載した。学校評価アンケートにおいて、適切な情報発信の項目について「あまりあてはまらない」と回答した生徒がいた。学校からのお知らせ等さまざまなツールを使って情報を提供していきたい。 ②総合的な探究の時間では、進路に応じた探究分野を地域の中から見出して活動を行った。生徒会行 |

| | | | | | | |
|------|---------------|---------------------|--|--|---|---|
| | | | | | | 事で地域理解の時間を設けることができた。企業見学において、今年度は地元スーパーにおけるAI活用や人吉市役所内を見学した。今後も地域と連携した教育活動を計画していきたい。 |
| | 業務改善 働き方改革 | 生徒と向き合う時間を確保するための工夫 | 校務の削減等が進み、職員の時間外勤務時間が法令で定められた上限の範囲内となった状態 | ①ICT機器の活用により、さらにペーパーレス化を進め、業務の効率化を図る。 ②SHR等において担任・副担任の連携を強化し、業務の平準化・効率化に取り組む。 | A | ①会議資料のデータ化及び各種アンケート等のICT活用により、業務の効率化とペーパーレス化をさらに進めることができた。定時退勤に対する職員の意識も高まり、時間外勤務時間は月平均8時間26分と、法令で定められた上限を大きく下回っている。 ②教職員の連携はとれているものの、業務の偏りがややあるため、業務の平準化に向けたさらなる取組が必要である。 |
| 学力向上 | 授業改革 | 授業の改善 | 主体的で対話的な学びの実践をすることで生徒が意欲的に授業に参加している状態 | ①一人一台端末等のICT機器を活用し、生徒が対話をしながら「学びの楽しさ」や「学びの意義」を感じ「達成感」を味わう魅力ある授業づくりに取り組む。 ②ICTの活用等テーマを絞った研究授業と合評会の実施、研修会等に参加し、授業力の向上及び改善に取り組む。 | B | ①教師のICT機器利活用の意識が高まり、様々な取組が見られた。工夫された授業づくりが多くできるようになってきている。 ②共通テーマを設定し、公開授業や研究授業を行った。教師一人一人の授業力向上及びICT機器活用に向けての取組を実施することができた。 |
| | 確かな学力の育成 | 個に応じた学習指導 | 生徒一人一人の学習面における課題や習熟状況を把握し、個に応じた学習指導がなされている状態 | ①各教科で個に応じた学習指導を実践するため、生徒一人一人の課題や習熟状況に応じた教材づくり等を行う。 ②月に一度、算数・数学のやり直しの時間を設定し、生徒一人一人の基礎学力の向上を図る。 | A | ①丁寧な机間指導や少人数を生かした対話的な授業を実践していくことで、意欲的な学習態度を引き出し、生徒に応じた助言をしたり、課題づくりを行ったりすることができた。 ②算数、数学のやり直しの時間「ベーシックブースト」を設定した。生徒のほとんどが熱心に取り組む姿が見られた。数学、理科などで必要な事前の知識・技能を身に付けた生徒が増えたように思われる。次年度は国語の |

| | | | | | | |
|--------------|-----------|--------------|---|---|---|---|
| | | | | | | やり直しの時間を追加する形で継続していきたい。 |
| | | 指導と評価の一体化 | 学習評価のあり方について工夫・改善がみられる状態 | ①観点別評価についてルーブリックを作成するなど、評価基準を分かりやすく確認できるようにする。 ②個に応じた適切な評価の在り方を研究し実践する。 | B | ①観点別評価が本格的に始まってから4年目となり、各教科でルーブリックなどの基準づくりが進んできている。 ②評価の妥当性については検討の必要があると感じている。 |
| キャリア教育(進路指導) | キャリア教育の充実 | 基礎的・汎用的能力の育成 | 年次に応じた将来展望と実現に向けて、客観的な視野を持ち、主体的に取り組める状態 | ①生徒との面談を通し、生徒の進路希望を把握した上で、発達段階に応じたキャリア教育を考察し、実践する。 ②個々の進路希望に応じて本校の個別支援プログラムである「人定アドバンスプロジェクト」を企画、実施する。 | B | ①卒業学年に関しては、前年度からの活動を保護者と連携して充実することができた。ハローワークや外部機関と連携しながら進路指導を進めた。他の学年においては、基礎力診断テストを用いた全職員による進路検討会を実施し、一人一人の生徒について分析し、教科指導や進路指導に生かした。 ②卒業学年については、個別指導プログラムを作成し、計画通りにプログラムを遂行することができた。 |
| | | 探究活動の充実 | 探究活動を通して、自らの将来を考え、進路選択や卒業後の生活に活かされる状態 | ①昨年度から実施している、進路希望を意識した地域探究活動、「人定郷義館プロジェクト」をさらに充実させ、発展的なプログラムを構築する。 ②リフレクションカードの活用やワークシートの活用を通じて、計画的な探究活動をサポートする。 | B | ①1年生は「地域理解」をテーマに探究活動を実施し、地域理解が深まった。2年生以上は探究をしたい分野ごとにゼミを組織し、卒業予定者は成果発表、卒業予定者は中間発表という形で準備を進めた。昨年度から取り組んだ活動で、昨年よりも仮説を立てて探究することが浸透した。次年度、より充実した活動にしたい。②リフレクションカードを探究活動に導入し自己理解や相互理解を深めた。 |
| | 進路目標の達成 | 進路指導体制の構築 | すべての生徒の環境を把握し、卒業予定者の状況が考慮された進路実現がなされ | ①外部の機関、保護者、事業所との連携を図り、生徒の状況を考慮しながら進路希望を実現する。 | B | ①生徒の希望する進路先の事業所や学校と連絡を密にとり、希望する進路の達成に努めた。 ②支援が必要な生徒 |

| | | | | | | |
|------|-------|-----------|-----------------------------|---|--|---|
| | | | る状態 | ②生徒の特性や適性に応じながら、キャリア教育を意識した個別プログラムを構築する。 | | に関しては、ハローワークや外部機関との連携、保護者を含めた面談、職場見学を実施した。 |
| 生徒指導 | 個性の伸長 | 生徒理解の深化 | 生徒の特性や能力、可能性などが把握され、尊重された状態 | ①あらゆる機会を捉えて、生徒の特性や能力等を見いだすことに努め、生徒が能力を発揮し、伸ばす機会を設定する。 ②職員の間で生徒情報の交換、共有する機会を、年間を通じて設定し、生徒の可能性を伸ばす手立てを講じる。 | B | ①文化祭（人定祭）や生徒会行事など生徒が個性を発揮できる場面を設定することができた。それらの活動を通して、多くの生徒が充実感や達成感を味わうことができた。今後、全ての生徒にとって教育活動がより主体的なものとなるためにより生徒理解に努め適切な場面や課題の設定に取り組む。 ②週に1回、全職員による生徒情報連絡会を実施することができた。入力シートを刷新したことで、よりスムーズに情報共有を行うことができた。共有した情報を生徒に対する支援や指導に効果的に生かすことができた。 |
| | | 自己指導能力の育成 | 自己肯定感の高揚 | 生徒の自己肯定感が高まった状態 | ①生徒のよさを見だし、認め、褒め、励ます教育実践に努める。 ②一人一人の生徒に応じて適切な課題を設定し、スモールステップで課題を乗り越え、多くの成功体験を積むことができるように支援する。 | B |
| | | 自己決定力の育成 | 生徒が自己実現に向けて前進している状態 | ①様々な教育活動の場面で、生徒が自ら選択する機会を設ける。 ②対話の機会の設定や、ICT機器を活用した活動を取り入れることで生徒が主体的に生徒会活動を行うことができるよう支援する。 | B | ①文化祭（人定祭）や生徒会行事等において、生徒たち自らが自身の役割を考え組織で活動する機会を設けることができた。 ②ポスターやスライド作成などにおいてCanva等の活用やドキュメントソフトの活用によって、生徒一人一人が主体的に取り組む活動を設けることができた。多くの生徒が学校行事等に主体的に取り組むことができたがアンケート結果では生徒の一部は「あまりできていない」とい |

| | | | | | | |
|---------|------------------|--------------------|---|--|---|---|
| | | | | | | う回答があるため、一層生徒理解を深め場面設定や課題設定を適切に行う必要がある。 |
| 人権教育の推進 | 人権を尊重する意識の高揚 | 教科指導・HR指導における取組の推進 | 教職員みずから人権についての認識を深めて実践することで、生徒が人権についての正しい理解と認識を身につける状態 | ①生徒に向けての人権教育ホームページや講演会については、より深い人権に関する認識を得るために、事前に職員研修の機会を設ける。 ②教材研究を行う上で、各教材に込められた人権問題を読み取り、授業を展開するように心がける。 | B | ①講演会や職員研修で話を聞いたり職員同士で意見交換をしたりする中で、人権問題について認識を深めた。 ②各教科において人権問題を意識した授業を展開している。今後は各教科でどのように取り組んでいるか情報を共有し、検討する機会を設けたい。 |
| | 「命を大切にすることを育む」指導 | 生命を尊重する意識の高揚 | 命の大切さや環境保全などについて指導し、人権尊重やいじめ防止の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める状態 | ①自己有用感や自己肯定感の高揚を図るため、面談等においては、生徒の意見を肯定的にとらえ、将来に対して夢がもてるような指導を行い、各自の進路保障につなげる取組を行う。 ②授業において、身近なことを課題として設定することで自らのこととして捉え、積極的な課題解決を行うことで、自己肯定感を培う。 ③生徒の心身の状態を把握するため、年に3回、心とからだのアンケートを実施する。 | B | ①人権教育講演会や心のきずなを深めるLHR、面談等を実施し、自己有用感や自己肯定感の高揚を図り、各自の進路保障につなげるように取り組んだ。 ②各教科での授業や合同SHRにおいて自らのこととして捉え、取り組む様子が見られた。 ③年に3回、心と体の振り返りシートや心のアンケートを実施し、生徒の心身の状態を把握するように努めた。生徒に課題が見つかった場合すぐに対応できるように検討していきたい。 |
| いじめの防止等 | いじめの早期発見 | いじめの認知と対処 | 日頃からの生徒との信頼関係の構築に努め、生徒の変化について、常に情報交換ができる状態 | ①各担任による面談に加え、各部による面談(年6回)を行い、生徒からの情報を共有することにより、早期対応を行う。 ②定期的に生徒情報連絡会を開催し、生徒の状況を共有し、全職員で生徒を見守る環境をつくる。 | A | ①担任や各部の面談に加え、給食の時間や生徒会行事では職員も参加しレクリエーションに取り組むなど生徒が気軽に職員と交流する時間を作ることができた。いじめに関するアンケートでも問題とならなような事案はなかった。いじめの認知件数は0件だった。 ②毎週金曜日に生徒情報連絡会を欠かさず実施し、生徒に関する情報を全職員で共有した。 |
| | いじめの未然防止 | 望ましい人間関係づくり | 全校集会や学級活動において日常的にい | ①生徒会で「いじめゼロ宣言」を前期と後期にそれぞれ | A | ①生徒会で「いじめゼロ宣言」の宣言項目を制定し、全生徒 |

| | | | | | | |
|---------------------|---------------|------------------|---|---|---|---|
| | | | じめ問題について触れ、いじめを許さない雰囲気をつくる状態 | れ制定し、月に1度、合同SHRの時間を利用して、定期的に周知徹底する。 ②「心のきずな月間」において全生徒を対象に、仲間づくりを目的とする取組を実施する。 | | で共有することができた。生徒会役員を中心に全生徒で唱和する機会を設けることができた。 ②自己理解、他者理解を深めることを通じた仲間づくりのための授業に全生徒で取組み、学年を超えた交流ができた。 |
| 地域連携（コミュニティ・スクールなど） | 社会に関わられた学校づくり | 総合型コミュニティスクールの推進 | 総合型コミュニティスクールとして、特に定時制の学校として地域に求められていることの明確化と解決策が示された状態 | ①進路学習や総合的な探究の時間、生徒会活動において、地域との連携を意識した活動を行う。 ②学校運営協議会を通じた課題の把握とその解決に取り組む。 ③学校ホームページを頻繁に更新することで、教育活動を積極的に外部へ発信していく。 | A | ①学年でテーマに応じた探究活動ができた。進路講演会を通して、おくんち祭りについて詳しく学習できた。 ②学校運営協議会においては、特に課題は出なかったが、講演会等では、地域の方を講師としてお招きし、生徒たちが地域に貢献できることを考える機会を確保した。 ③生徒の活動の様子を随時ホームページに掲載し、外部に発信した。 |
| | | 保護者との連携 | 保護者の学校活動への理解と積極的な参加が行われている状態 | ①秀麗会役員への電話連絡や「すぐーる」を活用し、密に情報提供を行うことで各種行事への保護者の積極的な参加を促す。 ②秀麗会役員、保護者として具体的に何ができるかを示すことで参加しやすい環境づくりを行う。 | B | ①「すぐーる」を活用し、各種行事の案内を行った。人定祭などの行事への保護者参加は見られたが講演会の保護者参加はなかった。公開授業は保護者の参加があった。 ②来年度は学校行事の連絡を早めに計画し、保護者が参加できる環境づくりを行いたい。 |

4 学校関係者評価

(1) 学校経営

- ・学校がスムーズに運営されるためには、先生方の共通理解・連携が大切である。今後とも一丸となって教育活動に取り組んでいただきたい。
- ・定時制という不規則な勤務時間の中、時間外勤務時間の削減に取り組まれ、成果が着実に上がっていると思う。職員全員で生徒の指導にあたるという姿勢で、業務の偏りを少しでも解消していくことを期待する。
- ・探究の分野が地域において広がりを見せていると思う。地元産業は卒業生も多数いるので、今後が期待される。
- ・先生方の働き方改革へ向けた取り組みにおける成果が確認できた。管理職の先生方からのご指導が行き届いている結果であると感じる。

(2) 学力向上について

- ・ICT機器を活用した授業、生徒が主体的に取り組む授業、丁寧な机間指導や対話的な授業が行われており、そのことが生徒との信頼関係につながっていると思う。ただ、生徒へのアンケートの結果で肯定的意見が少ないのが気になる。
- ・個に応じた学習指導の充実に向けて工夫改善しながら取り組まれている様子がうかがえる。

- ・ベーシックブーストはよい取り組みであると思う。ネーミングセンスがいい。学びの足腰が強化されると思う。
- (3) キャリア教育（進路指導）について
 - ・基礎力判断テストを用いた全職員による進路検討会、個別指導プログラム、探究したい分野ごとのゼミなど、さまざまな取組が行われていて大変良いと思う。
 - ・進路目標の達成に向け、支援が必要な生徒に対するきめ細やかな対応ができていて良いと思う。
 - ・卒業学年については充実した結果でよかったと思う。支援が必要な生徒は時間の制約がある中ではあるが、引き続き指導をお願いしたい。
 - ・適宜適切な指導が行き渡っていると感じる。アンケート結果から先生方の生徒へ対する情熱を強く感じた。
- (4) 生徒指導について
 - ・人定祭（文化祭）や生徒会行事等をとおして、生徒が個性を発揮する場面を設けることが、生徒の成長に大きな影響を与えるものと思う。生徒の学校行事の取組に関する肯定的な意見がなぜ少ないのか気になる。
 - ・週に1回の全職員による生徒情報連絡会は、生徒を理解し、指導に生かすうえで大変重要だと思う。
 - ・ICT機器の活用で、生徒の活躍方法が広がっていてとても良いと思う。顔が見える、目が届く少人数の中で、どのような活用の方法があるのか、デジタルネイティブたちの方から出てくるかもしれない。期待したい。
 - ・細やかな指導が行われていると感じる。生徒の思いを汲み取りながら、生徒の自律を促す指導が行われている。
- (5) 人権教育の推進について
 - ・人権教育の推進のためには、生徒の自己有用感や自己肯定感を高めることが大切だと思う。先生方が共通理解を図りながら地道に指導を続けていかれることを期待する。
 - ・授業、各教科での人権問題の意識、身近なことの中での課題設定は大切なことだと思う。心とからだのアンケート、引き続きの取組をお願いしたい。
 - ・教育計画に沿った適切な推進ができていたと感じた。
- (6) いじめの防止等について
 - ・いじめ問題の完全な解消は大変困難である。今後も生徒会の取組をはじめ先生方の指導によって、いじめのない人高定時制であってほしいと願っている。
 - ・少人数を最大に活かし、仲間づくり、自己理解・他者理解の機会づくりができていたことは素晴らしいと思う。これが自己肯定感に繋がると思う。
 - ・いじめは許さない強い姿勢を感じる。また生徒への細やかな配慮がされており、いじめの解消と防止、生徒へのケアと一連での方針が確認できた。
- (7) 地域連携について
 - ・ホームページの更新が意欲的に行われており、大変良いと思う。
 - ・人定祭（文化祭）や公開授業などの行事に保護者が参加されることは良いことである。保護者に少しでも学校に来ていただき、子供の学校での姿を見ることは大切なことだと思う。
 - ・すぐーるの活用はこれからだと思う。保護者の方々も目に入りやすくなったので、次は行ってみようとなるかもしれない。期待したい。
 - ・各種活動及び課題と成果が確認できた。

5 総合評価

- (1) 学校経営について（「働き方改革」への取組も含む）
 「学校経営方針」に関しては、部長会を毎週設定し、主任・主事の情報共有と各分掌の連携を図ることにより、教育活動の組織的な実施につなげた。「魅力ある学校づくり」は、今年度もホームページや地元新聞、各種通信等を通して、生徒の様子を発信した。また、総合的な探究の時間や生徒会行事、キャリア教育等さまざまな教育活動において、地域との連携を実践した。「業務改善・働き方改革」は、ICT機器も活用しながら業務の効率化を進め、定時退勤に対する職員の意識も高まり、時間外勤務時間は昨年度と同様に法令で定められた上限を大きく下回った。
- (2) 学力向上について
 学校評価アンケートでは「ICTの活用等、わかりやすい授業の工夫がされ、意欲的・主体的に参加できる授業が行われている」という項目で、「あまりあてはまらない」と回答した生徒がいた。さまざまな工夫を行った授業実践に各教科で取り組んでいるが、生徒が意欲的・主体的に参加できるまでには至っていない。個々の状況を踏まえ、さらにアプローチの仕方を今後考えていく必要がある。
- (3) キャリア教育（進路指導）について
 「基礎的・汎用的能力の育成」では、卒業学年への対応は外部機関と連携しながら十分にできた。他の学年においても、基礎学力診断テストを用いた全職員による進路検討会を実施し、教科指導や進路指導に生かすことができた。卒業予定者全員の進路を決定することができた。
- (4) 生徒指導について
 「個性の伸長」に関して、生徒理解に力を入れ、週に一回の生徒情報連絡会において、全職員で生徒の状況を把握し共有しながら適切な指導ができるように努めている。また、学校行事では生徒が個性を発揮し、生徒自らが考える機会を設けることができ、毎回実施した生徒対象の振り

振り返りアンケートにおいては、多くの生徒が達成感を味わうことができていた。しかし、生徒対象の学校評価アンケートの「学校行事への主体的な参加」において、否定的な意見があったため、来年度はさらに生徒が主体的に参加できる行事を目指したい。

（５）人権教育の推進について

全教科、全領域において、人権教育につながる指導を行うことができた。今年度は、職員がより深い人権に関する認識を得るために、講演会や職員研修において、話を聞いたり職員同士で意見交換を行ったりした。生徒に対しては、今後、授業や講演会で学んだことを実践する場の提供を行っていききたい。

（６）いじめの防止等について

「早期発見」については、年に３回行う心のアンケートのほか、定期的な面談の実施で生徒の状況を把握し、毎週実施している生徒情報連絡会において、職員間で情報を共有することができた。「未然防止」については、生徒による「いじめゼロ宣言」など啓発活動を行っており、全生徒で復唱する機会を度々設けることができた。いじめの認知件数は０件であったが、今後も生徒会の取組をはじめ職員のきめ細やかな指導によって、いじめのない学校づくりに取り組んでいきたい。

（７）地域連携（コミュニティ・スクール）について

人定祭（文化祭）などの学校行事や公開授業への保護者の参加が見られた。保護者との連携については、生徒会行事を含め、様々な行事や講演会等で保護者の方々が参加しやすい環境づくりを引き続き行っていききたい。

6 次年度への課題・改善方策

【課題１】

総合的な探究の時間の充実と地域連携

【改善方策】

昨年度の反省を生かして、評価の方法等に工夫を凝らし、探究の内容の充実に努めたが、個人に差が見られる。ゼミにおける担当教職員との対話を重視し、それぞれの探究テーマを深められるようサポートしたい。また、地域の課題に関する内容も多く見られるため、地域に足を運んで探究する時間も確保したい。

【課題２】

自己有用感や自己肯定感を高める場面設定と課題設定

【改善方策】

引き続き、自己理解・他者理解を促すようなLHRや講演会を行い、学校行事や生徒会活動をととして生徒全員が達成感や充実感を味わえる場面設定や課題設定を行っていく。次年度は生徒の主体性を意識して取り組みたい。

【課題３】

保護者の学校行事への参加

【改善方策】

行事や講演会ごとに保護者へ参観の案内等を行っているが、特定の保護者の参加にとどまっている。人定祭（文化祭）や生徒会行事で、生徒と保護者がともに活動できる内容を検討していききたい。